

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	ヤギヌマローカルリソース	
代表者名	柳沼 和宏	
連絡先	TEL : 080-3148-9983 FAX :	E-mail 9984yume@yahoo.ne.jp

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	多様な居場所および地域コミュニティの再生事業
事業の目的	<p>設立の目的</p> <ul style="list-style-type: none">・東日本大震災による津波被害で甚大な被害に遭い、現在、居住禁止区域となった仙台市若林区荒浜の沿岸部を対象とする多様な居場所の運営。・地元の農業や漁業など地場産業を中心とした食文化の継承及び荒浜産の食材を使った食事の提供・フードパントリーの実施。・荒浜地区にある資源を使ったモノづくり・広報活動。・本年度の重点目的である里海荒浜ロッジを会場とした多世代交流型のコミュニティスペース『あらはまこども地域食堂』の新設。※プレーパークや外遊びの活動を含む・荒浜に生息・由来する生き物・植物を観察し学び伝える活動。※生きもの観察会・自然体験会の実施・フィールドワークや外遊びなど、体験型の遊び場を設け、参加者が自発的に創意工夫できる環境を整備する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ禍で自遊に遊ぶことのできない親子を招待し、地域マルシェのような小規模なイベントの開催。
<p>事業の 具体的内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『あらはまこども地域食堂』を4月よりスタート。仙台あらはま初のこども食堂として、毎月第2日曜日午前の部：概ね11:00~13:25を目安に食事を通じた地域交流。午後の部：13:30~15:00ひとり親家庭ならびに生活に何らかの困難を抱える方への相談・応対。※必要に応じ、行政や他の団体との連携・紹介する地活を含む。 協力金:こども100円 おとな300円 ※お弁当なしの方は無料 ・こども食堂の食事は地元の食材を使ったお弁当の配食。 <p>その他、プレーパークや外遊び、フィールドワーク、フリースペース等の活動を行う。季節行事として、荒浜出身の住民を巻き込みながら、地元の食文化や郷土料理などを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒浜再生を願う会という任意団体の協力を得て、元住民との交流を兼ねた荒浜の魅力・食文化を伝える活動。 ・深沼海岸で毎月第2日曜に開催されるビーチクリーンや海洋プラスチックの除去・資源としての利活用など、地域課題への解決に向けた取り組みを行う。 ・生き物や植物の図鑑や書籍を使い、バードウォッチングやビーチコーミングなどの自然観察・荒浜地区にある植物や貝殻、マイクロプラスチック等の地域資源を活用したワークショップの定期開催。 ・地域にお住まいの子育て世代ならびに生活に何らかの困難を抱える方を対象としたフードパントリー（食材等の配布）の実施。※フードパントリーは無料 ・新型コロナ禍で自由行動したり、遊ぶことのできない親子を招待し、食事の提供（お弁当の配食）荒浜の資源を使ったワークショップやミニ音楽祭・パフォーマンスを行う思い出作りを目的としたイベントを開催。

活動の開始から完了までの流れ

・4月より、あらはまこども地域食堂を中心とする多様な居場所の運営をスタートする予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、緊急事態宣言等により、4月の開催を延期。その間、若林区役所や仙台市、仙台市社会福祉協議会などにチラシの配布やHP、SNSを開設するなど、広報活動を行う。本格的なスタートは5月9日からとなりました。

5月9日(日) 荒浜ロッジにて、午前中はこども食堂とプレーパークを実施。午後より、深沼海岸に移動。海浜植物観察会を行う。参加者21名(観察会のみ)の参加人数を含む ※ボランティア4名

6月13日(日) こども食堂の活動として、フードパントリー・プレーパークを併催。
参加者を対象に、荒浜産の野菜や保存食・飲み物等を配布。プレーパークでは、冒険遊び場仙台のプレーリーダーやボランティアスタッフと外遊び・荒浜のタネを使った種ダンゴワークショップを併催。
参加人数24世帯40名(おとな28名・こども12名) ※ボランティア5名

7月11日(日) こども食堂～お弁当の配食(ミックスフライ弁当)やカード遊び・プレーパークを併催 参加者14名(おとな8名・こども6名) ※ボランティア5名

8月8日(日) こども食堂～お弁当の配食(白身魚のフライ・野菜炒め弁当) 防災教育団体ゆりあげかもめ代表の佐竹悦子さんをお招きし、語り部の会を開催。その他、外遊び・ビーチサッカーを併催 参加者24名(おとな12名・こども12名) ※ボランティア5名

9月12日(日) 仙台市独自の緊急事態宣言発令に伴い、活動を自粛。当日、こども食堂活動の一環として、生活困窮層・ひとり親家庭(3世帯)を対象にフードパントリーを実施。

10月10日(日) こども食堂～お弁当の配食(唐揚げ弁当) カード遊び・外遊び・ビーチサッカーを併催。参加者11名(おとな5名・こども6名) ※ボランティア4名

	<p>11月3日（水）多様な居場所及び地域コミュニティーの活動として、荒浜ロッジにて小規模なイベントを開催。 参加者 50名 ※ボランティア 4名</p> <p>11月14日（日）こども食堂～荒浜産のシジミ汁（郷土料理）ハンバーグチキン弁当 外遊びを併催。参加者 18名（おとな 11名こども 7名） ※ボランティア 4名</p> <p>12月12日（日）こども食堂～お弁当の配食（ミックスフライ弁当）・スポーツチャンバラ・外遊びを併催。参加者 18名（おとな 7名こども 10名） ※ボランティア 4名</p> <p>1月9日（日）こども食堂～お弁当の配食（ハンバーグ弁当）ボードゲーム・おうちプロジェクト（口腔内ケアワークショップ）参加者 16名（おとな 11名こども 5名）ボランティア 3名</p> <p>2月13日（日）こども食堂～お弁当の配食（ミックスフライ弁当・白身魚のから揚げ弁当）その他、フードパントリーとして、荒浜産のお野菜・お味噌 たくあん 保存食などを参加者へ配布。また、今月は、オミクロン株等の感染拡大に伴い、外遊びを自粛。主に室内にてボードゲームやドミノ遊びを行う。参加者 11名（おとな 6名こども 5名）ボランティア 4名</p> <p>3月13日（日）こども食堂～お弁当の配食（唐揚げ弁当・焼き魚弁当）その他、お菓子類・保存食・飲み物など。オリエンテーションとして、はまひるがおネット東北支部さんと深沼海岸周辺にて自然観察を兼ねたビーチコーミング。貞山運河にてボート体験などを実施。参加者 17名（おとな 9名こども 8名）ボランティア 5名</p> <p>3月27日（日）海岸公園センターハウスへ集合。こども食堂（お弁当の配食）と貞山運河にて、生き物・自然観察会を実施。参加者 20名（おとな 12名こども 8名）ボランティア 3名</p>

活動の成果と教訓

東日本大震災に起因する津波被害により、非居住区域となった仙台市荒浜の沿岸部に於いて、こども食堂やフリースペース等の居場所を定期的に開催することで、若林区の住民（主に子育て世代）のニーズを顕在化。他の区域と比較して、開催件数の少ない地域を活性化しつつ、気軽に立ち寄れる地域コミュニティの再生を試みた。活動を通じ、一部の参加者から、新しい利用者をご紹介いただけたこと。こども食堂のボランティアをはじめ、フリースペース・観察会などのサポーターとして、運営にご協力いただくなど、一定の効果がありました。

・6月に開催したフードパントリーでは、元荒浜住民や荒浜地区にの想いのある方、他地域でこども食堂の運営に関わる方などのボランティアにも支えられ、地場産業である荒浜地区の生産農家（3か所）からお野菜などの食材を購入。地元の住民をはじめ、地域にお住いの親子（ひとり親家庭を含む）、他地域からも24世帯（約40名）の参加があり、潜在的なニーズを確認できた。

・こども地域食堂では、社会福祉法人ポッケコミュニケーションネットワーク様のご協力により、あらはまこども地域食堂オリジナル弁当を開発。食材の一部に荒浜産のお米・お味噌・野菜類を使用することで、地域にお金が循環する取り組みに貢献できた。また、食を通じた多世代交流を主軸に地域の文化・歴史・課題などを可視化することで、あらはまの魅力・取り組むべき活動などをテーマに社会的な実験を行うことで、たくさんの方にご参加いただきました。

・生き物観察・自然体験などのフィールドワークでは、荒浜地区を中心とした海浜植物、海辺の生き物等への知見を高めることができました。また、地域資源である在来種の保全・保護を行う一方、外来種の繁殖が地域課題として顕在化していることが活動の実施により判明。今後も、継続的な活動が求められている。

・仙台沿岸にある地域資源を活用したワークショップも定期的に実施。活動を通じ、荒浜沿岸に生存・生息する動植物の生態系に触れることで、地域の魅力を発掘、再確認することができました。今後も、ブラッシュアップしながら、魅力の発掘、課題対応が必要であるといった教訓を得ることができました。

7月19日。当団体が取り組むあらはまこども地域食堂の活動が河北新報夕刊『志民の輪』に掲載されました。

※活動実績の事例として、記事のコピーを添付させていただきました。

8月8日

こども食堂に名取市在住の佐竹悦子さんをお招きし、『語り部の会』を開催。3.11震災時、閉上保育所の所長として犠牲者を出さずに行った避難行動は、後に『ゆりあげの奇跡』とも呼ばれ、マスコミに取り上げられるなど、佐竹さんはちょっとした有名人。震災の教訓として、防災・減災教育の必要性を感じ、現在は任意団体ゆりあげかもめ代表として、防災減災について参加者と学ぶことができました。

11月3日

新型コロナ禍で自由行動したり、遊ぶことのできない親子を招待し、食事の提供（お弁当の配食）荒浜の資源を使ったワークショップやミニ音楽祭・パフォーマンスを行う思い出作りを目的とした小規模イベントを開催。

仙台のご当地アイドルやパフォーマーによるライブの他、ミニライブ、荒浜の木の実や貝殻を使ったハーバリウムワークショップなどを行い招待者の他市内外から50名の来場があり、盛況のうちにイベントを終えることができました。参加者50名（内27名招待・23名観覧者）

※ボランティア4名

11月14日

こども地域食堂にて、地元荒浜出身である方から貞山運河で捕れたシジミ汁のおふるまいがありました。荒浜の漁師一家として生まれ育ったその方から、震災前の貞山堀では、ハゼやシジミ漁が盛んだったこと。毎年、12月になると、雑煮の出汁となるシタビラメを焼いて正月の準備をすることなど、震災前の荒浜地区の暮らしや食文化等を伝えながら、参加した皆さんとの交流を深めることができました。

12月12日

こども地域食堂では、スポーツチャンバラ協会の方が足を運び、参加者へスポーツチャンバラの体験参加の機会を設けました。コロナ禍で思いっきり外で遊ぶことのできない子どもたちにとって、全身を使うチャンバラ運動は、とても面白かったようです。また、参加者の中には、継続してやってほしいとの声もあり、今後も定期的に行う予定です。

1月9日

こども食堂はコロナ禍と言う事もあり、人数制限や積極的な外出を控えるなどの影響もあり、少人数での開催となりました。加え、オミクロン株など新たな感染症も流行の兆しがあり、屋内での活動のみで、外遊びやプレーパークなどの活動は自粛させていただきました。

2月13日

先月に引き続き、こども食堂では、お弁当の配食を中心に、コロナ感染症予防対策として、少人数・屋内でボードゲームやドミノ遊びなどに活動を縮小させていただきました。また、今回は、地元、荒浜産のお野菜やお味噌、沢庵や保存食等をフードパントリーとして参加者へ配布しました。

3月13日

午前中にこども食堂（お弁当の配食や海辺の生態系についての勉強会）を実施。午後より、はまひるがおネット東北支部の皆さんや参加者と一緒に深沼海岸周辺にて自然観察を兼ねたビーチコーミング。貞山運河にてボート体験などを実施。貞山運河では、ハゼの稚魚やシジミなど海辺の生き物を確認。子どもたちも興味津々で観察していました。

3月27日

本事業年度として最後の活動日。海岸公園センターハウスにてこども食堂とクラフトワークを開催。午後より、貞山運河にて、生き物・自然観察会を実施。参加した子育て世帯を中心にクロベンケイガニを発見したり、稚魚や貝類を見つけて海辺の生き物や自然環境を五感で楽しんで居ました。

今後の展望など	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災によって、途切れがちなコミュニティーに対し、多様な居場所づくりの価値を実感できた。今後も、次世代の芽を育みつつ、自発的な学び・遊び・体験の場を提供したい。 ・仙台市東部沿岸地域（蒲生地区・荒浜地区・井戸地区など）を中心として海辺の生き物と暮らしを学ぶ（生き物観察）。団体として、参加者と同じ環境を体感できる自然体験会の実施。また、動植物が生存・繁殖できるインフラを整備することで、様々な分野の横断的かつ、複合的な体験企画を実施したい。 ・宮城県レッドリストに指定されるスナガニやハマナス、ビオトープの保護・維持・発展ならびに回復にかかわる活動。また、海辺における草原の外来植物、野鳥、季節の多彩な生態を観察・体験・再生するための活動。 ・不定期となりますが、食を通じた多世代交流の場を設けたい。
---------	---

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	500,000	
協力金から拠出	9,930	
自己資金	0	
合計	509,930	

■ 支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
会場費	里海荒浜ロッジ使用料	22,000	22,000
設営費	里海荒浜ロッジ団体会員入会費	5,000円	0円
備品費	A3対応ラミネーター・ウェルカムボード・タープテント・プリンター・炊飯器・調理器具・ワイヤレスマイクセット	85,201円	55,281円

食材費	配食用お弁当・会食用食材（主に野菜類）調味料・保存食（レトルト食品などを含む）お菓子類・飲み物類など	163,333 円	157,328 円
運搬費	フードバンク（富谷市）往復～お弁当の受け取り ※運搬費として 1 日 600 円を計上 600×17 日	10,200 円	10,200 円
交通費	運営ボランティア交通費	19,600 円	19,600 円
謝金	地域資源を活用したモノづくり講師料・荒浜沿岸フィールドワーク講師料	13,000 円	13,000 円
通信費	切手代・PDF データースキャン代・郵送代	768 円	768 円
印刷費	コピー代・チラシ代・デザイン料・印刷代	13,108 円	12,090 円
消耗品費	事務・調理・福祉活動にかかわる消耗品・検温器・ボードゲーム・知育玩具・衛生用品・生き物・自然観察用胴長防水ズボン・ゴム長靴	174,990 円	41,372 円
保険料	オリエンテーション保険・福祉活動ボランティア保険	2,730 円	2,730 円
合計		509,930 円	334,369 円

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

- ① 福祉活動助成金 助成活動報告書
プリントアウトしたものを 1 部郵送、データもメールでお送りください。
- ② 領収書のコピー（郵送）
- ③ 成果物（活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送）
*写真は郵送とメールで送ってください。

7月11日の様子



8月8日の様子



10月10日の様子



11月3日の様子



あらはま海浜植物観察会の様子
(10月)



海辺の環境保護フィールドワークの様子



あらはまこども地域食堂 外遊びの様子



11月14日の様子



12月12日の様子



1月9日の様子



2月13日の様子

